

大会名 JAカップ 第37回 福岡県選抜バレーボール小学生大会

混合・決勝

期日: 2025年 11月 16日(日)

会場: 福岡市早良体育館

ファーストレフェリー: 東松利治

セカンドレフェリー: 水野政康

スコアラ: 中島重典

補助員: 豊津江=P

西尾畑フレックス	2	$\begin{pmatrix} 21 - 13 \\ 19 - 21 \\ 15 - 12 \end{pmatrix}$	1	赤尾研JVC
----------	---	---	---	--------

試合時間 0 時間 56分

混合決勝は西尾畑フレックスと赤尾研JVCの対戦。ゲーム序盤は決勝の緊張感から、両チーム共に細いミスが目立った。ゲーム再開直後はPTO後、西尾畑①北島のスパイク、連続サーブエースで一気に得点運ぶ。さらに、5番手木下番手松本の効果的サーブで後位に逆の押し切った。2セット目は互いのエースの打ち合う一進一退の攻防の中盤まで続く逆熱の展開。常にリードを保っていた西尾畑に対し、赤尾研は①山本の強打、潘若崎のサーブエースで終盤に追いつき18-19からの連続得点でセットを取り、五分に持ち込めた。3セット目、互いのエースに緊張を重ね、このゲーム中、西尾畑の潘若崎の相対的に絞られるミスが目立ち、北島の打ち出す潘若崎の有知に使う多彩な攻撃の序盤は不利だったが、3セット目を取り、見事初優勝を飾った。

※ 7~10行にまとめること。

戦評者: 不野忠輝

大会名 JAカップ 第37回 福岡県選抜バレーボール小学生大会

女子・決勝

期日： 2025年 11月 16日(日)

会場： 福岡市早良体育館

ファーストレフェリー： 茂田 エミ

セカンドレフェリー： 瀧川 ルミ

スコアラ－： 林 賢治

補助員： DELSOL太宰府

三橋 ジュニア 2 $\begin{pmatrix} 13 & - & 21 \\ 21 & - & 15 \\ 16 & - & 14 \end{pmatrix}$ 青柳 ジュニア

試合時間 0 時間 56分

12年ぶり2回目の優勝を目指す三橋ジュニアと準決勝激闘の末、勝利した青柳ジュニアとの対戦となった。第1セット三橋4番松本のサーブポイントなどで5点までリードするが、青柳のブロックから2番久保田・4番河野の強烈なスパイクで11点と逆転する。中盤お互いのサーブミスなどが目立ったが、終盤青柳の多彩な攻撃で第1セット青柳が先取する。第2セットまたも三橋4番松本のサーブが走るが、今度は青柳4番田中の連続サーブポイントで追いつく。中盤お互いにサーブで攻めるが、どちらも主導権が掴めない。終盤三橋1番江口のスパイクが効果的に決まり、第2セットは三橋が取り返す。第3セット青柳2番久保田の強烈なスパイクで前半リードする。しかしそこから三橋3番吉開のサーブポイントで流れを掴む。青柳も、2番・4番の多彩な攻撃で14点とあと一步まで追い詰めるが最後は三橋5番、桃島のサーブポイントなどで大逆転で勝利した。決勝に相応しい好ゲームとなった。

※ 7~10行にまとめること。

戦評者： 関田 隆二

大会名 JAカップ 第37回 福岡県選抜バレーボール小学生大会

男子・決勝

期日： 2025年 11月 16日(日)

会場： 福岡市早良体育館

ファーストレフェリー： 岸川 秀輝

セカンドレフェリー： 崎野 一輝

スコアラ－： 園田 烈士

補助員： 飯原ウイック男子

島門 ジュニア 2 $\begin{pmatrix} 21 & - & 12 \\ 21 & - & 18 \\ & & - \end{pmatrix}$ 0 幸袋 ジュニア

試合時間 0 時間 38分

島門は①山田のサーブでリズムを掴むと②市原、③福岡の二人が両サイドから強烈なスパイクで得点を重ねていく。幸袋も④勝野を中心に攻撃を仕掛けるがもう一歩というところでミスが出て徐々に点差は広がっていく。TTO直後から島門の攻撃は威力を増して幸袋に襲い掛かる。幸袋は2回のタイムで立て直しを図るが最後まで島門の勢いを止めることはできなかった。島門は続くセットも開始早々リズムよく攻め続け点差を広げていく。幸袋がタイムを機に①長野のスパイクとサービスエース③植木のスパイクで一気に2点差まで詰め寄るものの点差の持TTOを迎える。再開直後は一進一退の攻防が続くと思われたが島門が好リードで幸袋の攻撃を封じると両サイドのアタッカーが強烈なスパイクでこれに応え一気に大量リードを奪う。ゲーム終了まであと2点となったところから幸袋②長野⑤金子のサービスエース等で怒涛の追い上げにあい2点差まで詰め寄られるとおぼろげな挽回を求め、落着きを取り戻すと最後は②市原のスパイクが幸袋のエースに突っ刺さり、2セットを連取し優勝を決めた。

※ 7～10行にまとめること。

戦評者： 待鳥 昌光